

《プラン1》 学習指導（知）	
課 題	家庭学習時間が少なく、普段の生活の中で活字に触れる機会が少ない。
対 策	学活ノートを活用して、毎日の家庭学習の予定時間と実施時間を記録させる。また、家庭学習として読書に定期的に取り組みさせる。文章を正確に読んで内容を把握し、自分の考えをもつ活動を通して、家庭で活字に触れながら、「読み解く力」の基礎を養う。
重点目標	基礎学力の充実のための家庭での学習習慣の定着を図る。
数値指標	家庭での学習時間（タブレット学習、読書、塾等を含む）の、1週間の合計の目標を、1年生10時間、2年生12時間、3年生14時間（1日平均、1年生86分、2年生103分、3年生120分）とし、実施できた生徒の割合を80%以上にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学活ノートに帰宅後の家庭学習時間の予定を書かせ、生活の中に学習時間を位置付けさせる。（学習と読書の時間を合計して「家庭学習時間」とする） ・実施できた家庭学習の時間を、学活ノートに毎日記録して結果を蓄積することで、生活実態を振り返らせ、学習習慣の改善に繋げさせる。 ・担任が学活ノートの点検時に学習時間の確認を行い、個別に学習への指導・助言を行う。（特に未記入の生徒や学習時間が0分の生徒には適宜声をかける） ・各学期に最低1回、学活や学年集会等で学習の仕方を指導する。 ・各種生徒会委員会より、よいノートの取り方や、お勧めの学習方法（学習委員会）、お勧めの本（図書委員会）の紹介をする。 ・各学年とも週末は適切な量の課題を出し、家庭学習を推進する。 ・各教科担当を中心に、各種単元小テスト等の家庭学習推進の取組を行う。 ・保護者への取組の周知と家庭での協力体制づくりのため、学年だより、ホームページ等に取組状況を掲載したり、懇談会で生徒の生活実態を知らせたりする。

《プラン2》生徒指導(徳)

課 題	生活態度や学習規律は良好であるが、心配事や悩み等を抱えていたり、学校生活を楽しいと思えなかったりする生徒がいる。
対 策	積極的な生徒理解と生徒指導や、話し方、聞き方のルールの取組を継続する。また、道徳科における『思いやり』の項目を全学年で重点目標にしたり、SSTの実施の充実を図ったりする。
重点目標	『思いやり』の項目を基盤として、生徒の道徳性向上を目指す。
数値指標	「周りの仲間と協力し合ったり助け合ったりして、温かい雰囲気の中で学校生活を送っている」と答える生徒の割合を <u>90%以上</u> にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>道徳の授業</u>を通して、誰に対しても<u>思いやりの心</u>をもち、相手を<u>尊重</u>し、仲間と<u>高め合おう</u>とする態度を育てる。 ・ 学年道徳やローテーション授業、チームティーチング等の実施により<u>学級・学年の枠を超えた新しい出会い</u>のある授業をすることで、豊かな心を育む生徒を育てる。 ・ 学級・生徒会活動、学校行事や部活動等を通して、生徒が<u>仲間と共に努力する場</u>を共有することで、互いの<u>自己有用感</u>を高める。 ・ <u>生徒会</u>（学級・学年を含む）を中心とした<u>SNSの使い方</u>についての取組を通して、画面の向こうにいる仲間を<u>尊重</u>し、<u>大切に</u>できる生徒を育てる。 ・ 学活ノートやいじめ・悩み調査、教育相談や学級実態調査（Q-Uやi-check）等を通して<u>生徒理解</u>に努め、生徒の<u>心に寄り添う</u>関わり（教師と生徒の繋がりを深める関わり）を積極的にもつ。 ・ <u>学級通信</u>、<u>学年だより</u>や<u>ホームページ</u>を活用して生徒の活躍や頑張る姿を広く紹介し、<u>互いのよさを実感</u>できる場を多くもつ。

《プラン3》健康・安全指導(体)

課 題	メディアやSNSの使用が原因で、就寝と起床時刻が遅くなり、日中に眠くなったりする生徒がいる。メディアの中でも、特にゲームの弊害についての理解やルールづくりにおいて、保護者への啓蒙や啓発の機会が少なかった。
対 策	生徒会の各委員会活動、学活ノートの活用や家庭での話し合いをそれぞれ連携させ、生徒一人一人の望ましい生活習慣を確立させる。
重点目標	望ましい生活習慣を身に付けさせるための積極的な保健指導に努める。
数値指標	「毎日を健康に過ごすために、調和のとれた『食事』、適度な『運動』、適切な『休養・睡眠』をとっている」と答える生徒の割合を <u>80%以上</u> にする。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・とやまゲンキッズ作戦アンケートを実施し、生活習慣全般の<u>見直しと改善</u>を図る。(1、3学期) ・学校保健委員会や保健だより等を通して、『食事』と『運動』、『休養・睡眠』のバランスのとれた生活習慣の推進を図る。 ・学習や睡眠、メディア機器使用時間等、自分の時間の使い方を見直すため、<u>生活チェック</u>を実施する。また、その生活チェックでは事前に家庭で目標決めしたり、チェック週間後に家族にコメントをもらったりして、家庭と連携する。(7月、12月) ・熱中症予防のための<u>生活チェック週間</u>を設ける。(夏休み後半と2学期初め) ・給食委員会(生徒会)で朝食の大切さを呼びかけ、<u>家庭と協力</u>しながら食生活の見直しと改善を図る。 ・生徒会が作成している「メディアルール滑中の巻」と連携しながら、保健委員会で<u>スクリーンオフ22</u>を呼びかける。 ・学活ノートに毎日、起床・就寝時刻と朝食の有無を記入することにより、継続的に健康的な生活を意識させるとともに、<u>個別指導</u>の機会とする。